

# 令和7年度 学校関係者評価報告書

評価点	自己評価		学校関係者評価	
	A	B	A	B
	高いレベルで達成できた	達成できた	とても適切である	概ね適切である
	一部達成できなかった	ほとんど達成できなかった	あまり適切でない	適切でない
				判定できない

学校名: 広島大学附属福山中・高等学校

分野	重点目標 (評価項目)	年度計画(中期計画・中期目標) との関連性	具体的方策	成果指標・判断基準	自己評価		学校関係者評価		学校関係者評価を 踏まえた改善策
					達成状況, 改善策	評価	意見・理由	評価	
教育	① グローバルリーダーの育成 (WWL事業の着実な実践と成果の普及)	グローバルな社会課題の解決に向けた教科横断的・探究的な学びを通じた、イノベティブなグローバル人材を育成するためのカリキュラムを開発する。	WWLコンソーシアム構築支援事業で取り組んできたプロジェクト、研修を継続して実施する。	留学生とともに未来を考えるプロジェクト、未来の医療を創るプロジェクト、真庭研修を継続して実施する。これらの事業実践も踏まえて、「越境」をテーマとした授業研究を実施し、11月の教育研究会でその成果の一端を公開する。また、3月には探究学習の成果発表会を実施する。	11月の教育研究会は、はじめて2日間で実施し、「越境」をテーマとした授業研究も実施することができた。また、3月には探究学習の成果発表会を実施することができた。連携校との協働活動、中学生の積極参加が継続できている。	A	三菱みらい育成財団による助成事業の採択を受け、WWLで開発した各プログラムの継続に取り組むことができた。今後も「越境」をテーマとした授業研究に取り組むことを期待している。	A	今年度は三菱みらい育成財団による助成事業の採択を受け、WWLで開発した各プログラムの継続に取り組むことができた。この助成事業の採択が終わった後の連携校との協働的な学びを継続して実施できるか検討していく。
	① 研究開発の推進 (広島大学と連携した教育研究活動の推進)	大学の教員と連携・協力した教育研究活動を一層推進する。	広島大学トランスレーショナルリサーチセンターと連携した取り組みを進め、大学との教育研究協力を積極的に進める。	大学と連携した教育研究活動に関する協力件数を昨年度と同じく5件程度を実施する。広島大学トランスレーショナルリサーチセンターと連携した取り組みを中学生にも広げる。	広島大学トランスレーショナルリサーチセンターと連携した事業に3件取り組んだ。保健体育科で2件アンケート等で協力し、国語科で1件アクションリサーチ実地研修に協力した。	A	教育学部にとどまらず、医学部や広島大学の留学生とも継続して連携している点も評価できる。今後も継続して取り組んで欲しい。	A	大学、本校の生徒・教職員ともに過負担にならないようにバランスを取りながら、今後も大学と連携した研究を進めていく。
附属学校の役割・機能の見直し	① 教育方法の開発、普及 (教員の個人研究・グループ研究の支援、研究方法の研修)	大学との連携を強化し、大学の資産を活用して、先導的な教育方法の開発、普及を行う。	校内研究授業の活性化と附属学校間での授業研究の交流を行う。大学と附属の共同研究を推進する。	翠・東雲・三原の各附属学校と、お互いの教育研究大会へ参加し合う。先導的な教育方法を開発し、研究成果の学会発表を5件以上実施する。	翠・東雲・三原の各附属学校と、お互いの教育研究大会へ参加し合い、交流した。全国規模の各種学会で研究成果の発表を16件実施した。	A	校内でお互いの授業を見学し合う取組や、先生方が自発的に協働してカリキュラム開発を始めたことなど高く評価する。このような取組を公開していくことにも期待する。	A	教科・科目間の垣根を越えた「越境」的なカリキュラムに関する研究・実践を進めていく。今後も校内でお互いの授業を見学し合う取組を継続し、活性化させていく。また、理工学系の学部などを含めて、より広範な分野での連携を模索する。
	② 高大接続 (広島大学とのカリキュラムの連携や入学のシステム設計)	大学の進路ガイダンス調査・研究に協力し、入学のシステム設計に寄与する。大学と連携し、アドバンスプレイングを実施する。	興味のある生徒に、広島大学アドバンスプレイングや高大連携公開講座への参加を促していく。	広島大学アドバンスプレイングや高大連携公開講座について、生徒・保護者に発信し、延べ20名以上の生徒を参加させる。	広島大学アドバンスプレイングや高大連携公開講座について、延べ34名の生徒が参加した。	A	今後も広島大学アドバンスプレイングや高大連携公開講座について、興味のある生徒に参加を促していく。大学から調査要請があれば協力していくとよい。	A	広島大学アドバンスプレイングや高大連携公開講座への生徒の参加を積極的に促し、参加人数を増やしていく。
	③ 地域連携、地域貢献 (人事交流を基盤とした地域の学校との研究交流)	人事交流教員の派遣元府県や地域へ、連携・貢献するためのシステムを構築する。	人事交流教員に対する研修プランを検討する。福山市教育委員会との連携、交流を検討する。	人事交流教員について、交流期間中に一度は研究会において公開授業を実施する。福山市教育委員会の方に本校の授業視察に来ていただく。	今年度は、教科の授業で1名、「越境」の授業で1名、教育研究会において人事交流教員による公開授業を実施することができた。2月に福山市教育委員会の方々に、英語と総合的な学習の時間の授業を視察いただいた。	A	人事交流教員について、交流期間の後半で、一度は研究会において公開授業を実施してもらおうとする。福山市教育委員会だけでなく、広島県教育委員会との連携も進めていくとよい。	A	交流期間の後半を迎える先生方が、大学の先生に協力いただきつつ授業研究に取り組めるようにし、11月の教育研究会において公開授業を実施する。福山市教育委員会だけでなく、広島県教育委員会との連携も検討していく。
	④ 教育実習 (特色ある教育実習プログラムの開発)	教職大学院および教師教育プログラム等との連携によって、教員養成と教員研修のあり方について検討する。	教員需要の減少期における学部の教育実習、教職大学院実習等の指導方法を検討する。	教育実習入門・教育実習観察・教育実習B・教育実習Ⅰ・Ⅱを実施した後の学生へのアンケートで、満足・おおむね満足が95%以上を示す。	教育実習B・教育実習Ⅰ・Ⅱを実施した後の学生へのアンケートで、99%肯定的評価であった。	A	全国的に教員需要が減少しているだけでなく、教員のなり手が減少している点は憂慮すべきところである。附属で教育実習をすることで、教員になりたという意欲が湧いてくるような教育実習を実施して欲しい。	A	教育実習入門・教育実習観察・教育実習B・教育実習Ⅰ・Ⅱの系統性を踏まえ、より教育実習生が教員になりたいという意欲を高め、向上心を持って取り組める教育実習の実践に努めていく。
	⑤ 中等教育学校への改組 (全国のモデルとなる先導的なカリキュラムの開発)	中等教育学校のモデル校としての役割について検討し、教育課程の具体的な方向性を議論する。	全教職員によって構成される中等教育学校開校準備室を設置し、準備を進める。今年度は、教育課程変更案の作成、年間日程・行事予定の作成、新しい制服の検討・決定などに取り組む。	大学と連携したカリキュラム検討委員会を継続しつつ、週に一度の開校準備推進会議、開校準備委員会、月に一度の開校準備小委員会、職員会議での校長からの進捗状況説明を通して、学校一体となって準備を進めていく。	教育課程変更案を作成し、確定した。生徒も交えて新しい制服を検討し、確定した。3月には、福山と岡山で中等教育学校説明会を実施することができた。	B	開校に向けての準備が具体的に進んでいる。生徒・保護者・同窓会・今後の入学希望者やその保護者・その他関係者への情報発信を適宜行っていただきたい。	B	新しいプレハブ校舎の設置、8月に実施予定のオープンスクールの準備、諸規定の策定など具体的に進めていく。
学校経営	① 働き方改革 (業務の効率化)	検証可能な形での働き方改革を行い、公立学校のモデルとなる取り組みを行う。	ICT支援員の採用、各学年への副担任の配置、部活動への外部指導員の導入など、教員間の業務等負担の平準化に努める。	業務の効率化・平準化により、出勤・退勤時刻記録簿の所定労働時間以外の在籍時間数が年間320時間を超える教員数を前年度より減少させる。	教員間の業務等負担の平準化に努め、出勤・退勤時刻記録簿の所定労働時間以外の在籍時間数が年間320時間を超える教員数が24%減少した。	B	生徒たちにとって良い教育を行うためにも、先生方が心身共に健康で、元気にお勤めいただきたい。そのためにも、一部の教員に負担が偏らぬよう、教員間の業務負担の平準化に努めていただきたい。	B	ICT支援員や部活動支援員制度を活かしながら、さらなる働き方改革を進めていく。中等教育学校への改組準備を視野に入れつつ、教務システムの導入を検討していく。
	② 環境の改善 (安全・安心・快適な学習・労働環境の整備)	生徒および教職員の心身の健康と安全な学校環境を実現する。	教育助成会や教育後援会との緊密な連携により教育環境を改善する。生徒・教職員が安心して学校生活を送るため研修を強化する。	教育助成会や教育後援会と緊密に連携をとり、教育環境の改善に努める。安全衛生委員会を中心に安全・安心のための点検ならびに改善計画を立案し、実施する。生徒を対象とした避難訓練、教職員を対象とした救命講習会・避難訓練を実施する。	安全衛生委員会を中心に安全・安心のための点検ならびに改善計画を立案し、月に1回実施した。4月に教職員対象の救命講習会、6月に生徒を対象とした避難訓練、7月に教職員を対象とした避難訓練を実施した。	B	生徒・教職員の安全・安心な学校環境の実現のために、今後も安全衛生委員会を中心とした安全・安心のための点検ならびに改善計画の立案・実施は継続していく。	B	安全衛生委員会を中心とした安全・安心のための点検ならびに学校安全計画に基づいた定期の安全点検を実施し事故の未然防止に努める。また、教職員・生徒ともに防災意識を育む取り組みも継続していく。
その他	① 情報通信環境の整備 (先進的なICTの導入と活用)	GIGAスクール事業に対応した先進的なICT教育に取り組む。学校運営においてもICTを活用する。	情報ネットワーク整備ならびに、ICT機器の整備を継続して実施する。職員会議や教職員間での情報共有、保護者との連絡において、ICTを活用する。	情報メディア委員会や運営会議等で情報ネットワークの整備・活用を促し、授業だけでなく会議や保護者対応の場面でもICT活用を進める。各種届出や生徒指導の記録などでWEBシステムを活用していく。	授業だけでなく会議や保護者対応の場面でもICT活用を進めた。多くの授業においてGoogle classroomを活用している。各種届出や生徒指導の記録などでWEBシステムを活用した。	B	各HR教室へのプロジェクトの設置、情報処理演習室の改修、Wi-Fi環境の整備も進んでいる。一層、授業でのICTの活用を進めていただきたい。	B	Google classroomを積極的に活用し、先進的なICT教育に取り組んでいく。また、新たな教務支援システム導入を検討していく。
	② 入試制度の見直し (当校の入学者選抜の内容、実施方法の見直し)	児童・生徒のもつ、多様性を引き出すような入試のあり方を検討し、ミスのない厳正な入学者選抜を実施する。	受検生・保護者にとってよりわかりやすくなるように、我々教職員にとってより負担が減るように、インターネット出願を洗練させていく。	インターネット出願にあたり、募集要項での説明を丁寧に行い、受検生保護者や学校からの問い合わせが減少するようにする。中等教育学校への改組に向けて、適性検査問題について検討を続ける。	募集要項での説明の表現にも改善を加えた上で、インターネット出願を実施し、入試業務の効率化につなげることができた。	A	インターネット出願により、入試業務の効率化へつなげたことは評価できる。今後ともミスなく、地域のニーズに応えられる入学者選抜方法を検討していく。	A	インターネット出願を洗練させていく。中等教育学校への改組に向けて、入試のあり方の検討を具体的に進めていく。
	③ 生徒指導の改善 (いじめ防止、生徒理解の徹底)	いじめ防止を徹底し、生徒の心身の健康管理システムを改善する。	人とかかわりアンケート、人づきあいのアンケートを実施する。いじめ防止、配慮が必要な生徒に関する教職員研修を実施する。	SOSの出し方に関わる授業、いじめ予防や人権をテーマとした授業を実施する。自己肯定感や社会性を高めるための参考とするため、人づきあいのアンケートを実施する。人とかかわりアンケートを毎学実習する。いじめ防止、配慮が必要な生徒に関する校内研修を年間5回は実施する。	各学年人権をテーマとした授業を実施し、人とかかわりアンケートを毎学実習した。いじめ防止、配慮が必要な生徒に関する校内研修を年間5回実施することができた。	B	日頃からの丁寧な懇談など、生徒理解に努めることは継続していただきたい。人とかかわりアンケートの結果に対し、組織的な対応を早期に実施している。	B	発達支持的生徒指導を一層充実させる。いじめ防止基本方針の順守と継続的な見直しを実施していく。スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーに入ってもらい、問題を抱える生徒や家庭に対して支援していく。